



職業奉仕に確固の信念を

ロータリーの友 顧問 浅尾 久矩 (魚津)

昨年、1984～85年度のカルロス・カンセコRI会長は、「1905年にポール・ハリスがロータリーと奉仕の理念を発見したということは、地球上8,000年の幾多の発明にもまさる人類のための偉大な発見であった」と指摘されました。まさに卓見であると感銘いたしました。

私はロータリーに入っただいぶ経ってのことでありましたが、「手続要覧」社会奉仕の23-34の決議を見て全く驚きかつ感激したのであります。私のひそかに求めていた人生哲学に、ロータリアンとしてなんら気づくことなく見過してきたことに内心恥しい思いを抱きました。

仏教に菩薩の「四弘誓願」があります。「衆生無辺誓願度、煩惱無数誓願断」と唱え、生きとし生ける者すべての幸福と平和、救済を悲願して、しかも煩惱無数誓願断と誓っておられるのであります。

今日のような国際間はもちろんのこと、われわれの周辺社会、日常生活が経済問題でギンギン息づまるようなこの頃、私達はなんの確かな理想を求めることもなく毎日を送っていたようです。

なればこそ逆に道徳観念の確立した現代生活における、殊に実業、職業における人生哲学、職業哲学を求めるとあります。

私は宗教や哲学を勉強しているものでもありませんが、仏教は慈悲の心を、キリストは愛を、孔子は仁の実践倫理と「法」を説いて、永遠の平和、宇宙の大調和を説いているようであります。

法華經の寿量品は永遠の生命の実相を明らかにし、浄土三部經では人々の魂の救済を、唯摩經は仏教の深奥な処を説いて、釈迦は最後の涅槃の時に「ものごとは絶えず移り変ってゆく、怠らずつとめよ」とさとしていますが、仏教は当時の社会情勢からして職業倫理にまで及んでいないようです。

日蓮は「御みやづかい(仕官)を法華經とおぼしめせ、世間の治生産業は皆実相と相背せず」と説いていますが、御みやづかいと実業人との間に若干へだたりがあるようで充分とは考えられません。

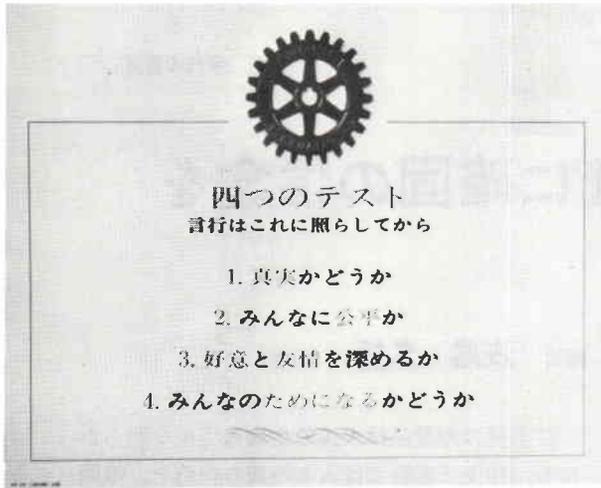
私は「手続要覧」に永年内心から求めていたものに会い得たような喜びと感激を覚えました。

「ロータリーは基本的には一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求(煩惱)と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情との間につねに存在する矛盾を和らげようとするものである」

今月はちょうど職業奉仕月間であり、この際この人生哲学実践倫理に基づく「超私の奉仕」の哲学、職業奉仕の哲学をさらに深め、確固とした信念にまで高めたいと思っています。

1976～77年度のロバート A. マンチェスターRI会長のターゲットは「“奉仕”ロータリーを私は信奉する」であります。浅学未熟な私に、より深く信心し実践するロータリアンとしての職業奉仕に関する先哲の教えがありましたら、教えていただきたいのであります。

(バスターガバナー)



米国オレゴン州のポートランドR
Cでは昨年4月、道徳をテーマとし
てパネル討論会をおこないました。

道 徳

Ethics: the discipline of right and wrong

道徳とはなにか

司会 ビル・トンプソン 連邦準備銀行研修所長
ウェブスター大学辞典には「道徳」について
の定義が次のように四つ載っています。

- ・道徳とは善と悪そして義務と責任について
の規律である。
- ・道徳的原則あるいは道徳的価値大系であ
る。
- ・個人あるいは集団の行為、活動を律する規
範である。
- ・集団、地域社会あるいは人々を特徴づける
理想、信念、あるいは基準などの複合的観
念である。

ロータリーには「四つのテスト」という道徳
律があります。他の団体にもこれと同じような
規範があります。しかし、誰もが道徳と呼んで
いるところのものは一体何か、それをはっきり
と示したものはないようです。道徳の追求とは
人間の徳性の極致の探究であるといえるかも知
れません。しかし、パネルの皆さんも、個人と
してあるいはグループとして、人間の徳性の極
致に達したと言い切れる方はないと思います。
私たちのなかで誰1人として、道徳というもの
の究極的、普遍的な意味を明らかにできるかど
うか、ましてやその模範となれるかどうかにつ
いて、自信のある方はないはずで、象げの塔
のなかで暖炉を囲みながら、抽象的な道徳論を
たたかわすのは、意義あることかも知れませ
んが、そのようなところで生まれた抽象的な理論
がこのきびしい現実の世界で通用するでしょ
うか。



THE FOUR-WAY TEST of the things we think, say or do

1. Is it the TRUTH?
2. Is it FAIR to all concerned?
3. Will it build GOOD WILL
and BETTER FRIENDSHIPS?
4. Will it be BENEFICIAL to
all concerned?

パネルは銀行家、神学者、保険会社重役、弁護士でした。ロータリアン誌編集部では、この討論の内容が、

職業奉仕に深く関わっているとして、職業奉仕月間にちなみ、同誌10月号に掲載しております。

善悪のけじめ

ロータリアン誌10月号より

宗教・文化の反映

トーマス・オッドー 牧師—ポートルランド大学学長
神学者である私の務めは、ごく簡単にいえば、道徳の基盤である哲学あるいは神学の骨組みを設計することです。つまり、なぜ人間は他人との関係について、あるいは自分の行為の是非について関心をもつのか、そういったようなことの根本をさぐるのが私の仕事です。

ユダヤ教、キリスト教の伝統には、道徳的行為についてのひらめきが随所にみられますし、そのほかの宗教あるいは文化的伝統のなかにもそうしたものがあつてあります。これらの伝統はすべての人間に無限の価値があることを教えています。道徳的行為とは、人間の尊厳、人間のもつ潜在的可能性を重んずる行為であると思つておられます。これに対し、不道徳な行為とは、人間の精神を傷つけ、あるいは曇らせる行為であるといえます。

基本的な道徳律とされている旧約聖書の十戒、あるいは旧約新約両聖書にある黄金律について考えてみましょう。この二つは雲にのっていつくからともなくやってきたわけではありませぬ。これらの戒律は人間精神のなかにひそんでいるものの反映であり、人類の歴史とともに次第に発展し、文化的宗教的伝統のなかに組みこまれてきた道徳的観念、そして責任感を反映したものです。

最近、宗教とは単なる儀式的なものであつてはならないとする認識が深まつてきています。宗教とは単なる儀式であつてはならず、人間の日常の行為振舞ひそしてまた人間相互の關係に直

接影響を及ぼすものでなければなりません。このことは古くから先覚者が声を大にして叫んできたことなのです。実際に私たちがそれを理解するまでに長い時間がかかりました。

私たちは、個人的にも社会的にも、それぞれの行為を通じて人生の価値をたかめるように努力しなければなりません。そして、道徳的に一貫した人生を送れるよう努力しなければならないと思つておられます。

“食うか 食われるか”

ルイス B. ベリー スタンダード保険会社会長

基本的な問題は「今日、人間は隣人を愛しながらも、なおかつ競争の激しいこの社会で、楽しく生活していけるだけの利益をあげていくことができるかどうか」という点にあると思つておられます。この答は社会のなかにあります。

シカゴのロイオラ大学の学長レイモンド・バームハート牧師が「正当な利得」というタイトルの著書を出しました。この本を書くため、彼は100人以上の実業家に直接インタビューし、そのほか1,612人の人々から無記名式のアンケートをとつたとのことです。その結果、実業家は一般が思つているよりはるかに道徳的であるという結論を導き出しています。

その反面、ルイス・ハリス社が一般米国民2,000人とのインタビューを基盤におこなつた調査によると、被調査者の42%は「大抵の実業家は、金もうけのためなら、悪いことでもなんでもやる」と答えたそうです。また77%が「実業とは所詮“食うか食われるか”だ」と考えておられます。